

研修旅行 2015 ～福島～

被災地における現在の放射線量について

20150629 鈴木 勝男

1. 調査期日 2015年6月24日(水)
2. 調査場所 主としていわき市内～相馬市の国道6号線沿いおよび国道115号線の一部
3. 使用測定器 ロシア製放射線測定器 RADEX RD1503
(線量計は標準規格がなく絶対値は機種により若干異なる)
4. 測定方法 空間線量は地上から約1m、物質の場合は対象物から約10cmの位置で測定
5. 調査経過 (文中単位は省略、全て $\mu\text{Sv/h}$)

いわき市内郷駅近くのレンタカー店からスタート、国道6号線を北上した。スタート地点から浜風商店街付近までは、線量は0.15程度と低かった。現在閉鎖中のJヴィレッジに立寄り測定、0.25と僅かながら上がった。ここには固定の線量計が設置されており、0.198と表示されていた。草むらに入り測定したら0.40と更に高い線量が確認された。

次に福島第二原発に向かったが発電所の200～300m手前に警察の検問所があり、Uターンを強いられた。検問所では0.30、付近の道路沿いで0.66と線量が明らかに上がってきた。

更に6号線を北上すると、「帰還困難区域」に入った。間もなくして、線量計からピーッと警報音が鳴ったので、良く見ると線量は1.47に上がっていた。第一原発に近づくと警報音が鳴りつ放し、線量は2.68～4.58と上がるばかりで、恐怖感から年甲斐もなくドキドキしてしまった。第一原発に最も近い6号線沿いで停車し車外で測定したら5.38と今回の最高値を記録した。「帰還困難区域」の6号線沿いに見えるのは、ひと気の無い民家や店舗、これらの入口や脇道を閉鎖する数多くのバリケード、沢山の黒い除染袋、人影といえばマスクした除染作業者と警官だけという寒気のする景観を目の当たりにして、改めて原発事故の恐ろしさを思い知らされた。

約14kmの「帰還困難区域」を過ぎてから最初のコンビニ(ローソン、浪江町役場前)で測定したが、流石に良く除染されているらしく0.11とかなり低かった。

昼食後、南相馬の放射能測定センターに立寄った。この線量は0.18。同センターで測定した南相馬と浪江町の放射線量率マップを見せて頂いた。その後、かしまの一本松に移動、線量はここでも0.18と低かった。一本松の近くに黒い除染袋があったのでそれに近づけて測定してみたが、空間線量とほぼ同じであり袋の遮蔽効果はあるようだ。但し、除染袋は耐用年数が3-5年、最近では袋を突き破って新芽が出るなど問題があるらしい。

これで線量測定は終わりかと思っていたら、福島市に向かう国道115号線の阿武隈高地の峠で0.35、下りの谷間で0.46を記録した。SPEEDI予測の方向であること、谷間で堆積し易い等から、第一原発から60kmも離れたところにも未だ汚染の爪痕が残っているものと考えられる。



閉鎖された店舗と「帰還困難区域」の看板



除染袋を測定中の筆者(右)

放射線量調査 走行ルートおよび測定結果(μSv/h)

実施日:2015年6月24日



参考資料

1. 現在の避難指示区域

分類	概要
帰還困難区域	5年間を経過してもなお、年間積算線量が20mSvを下回らないおそれのある地域 現時点で年間積算線量が50mSv超の地域
居住制限区域	年間積算線量が20mSvを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める地域
避難指示解除準備区域	年間積算線量20mSv以下となることが確実であることが確認された地域

注1) 年間20mSvとは

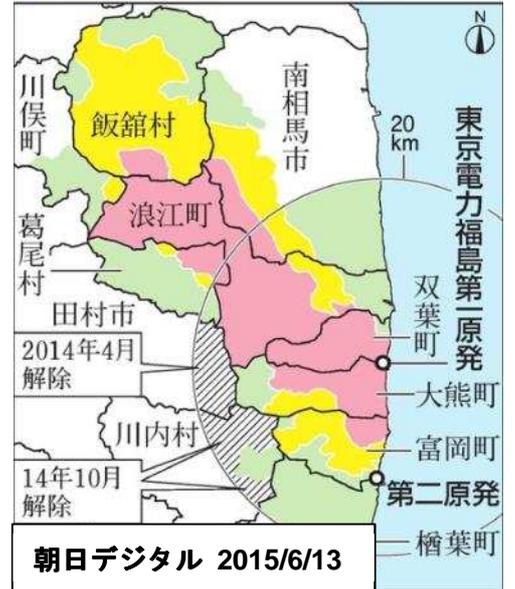
→ 3.8 μ Sv/h に相当(16Hは屋内、8Hは屋外を想定)

注2) 環境省の除染目標(長期): 年間1.0mSv以下にする

→ 0.23 μ Sv/h に相当(自然放射 0.04 μ Sv/hを含む)

原発事故の避難指示区域

- 避難指示解除準備区域…3万1800人
- 居住制限区域……………2万3000人
- 帰還困難区域……………2万4400人



2. 原子力規制委員会の最新空間線量率マップ

2014年9月20日時点(事故から42ヶ月後)

